

競技内容（屋外消火栓の部）に関することについて

○ 点検要領について

実施要領では競技前に点検を実施する旨記載されているが、出場チーム数の増加及び競技時間の短縮等の理由から、今回の大会においても省略するので、操法指導の際に説明しておくこと。

○ 集合要領について

実施要領に記載されているとおりであり、訓練札式は「消防」の基本であるため、指導の際には競技者に対し十分周知すること。
なお、審査においては、昨年同様、この要領に基づき実施することとする。

○ 各員の定位について

1番員、2番員はホース台左右の垂直延長線上から靴底がはみ出さないよう位置し、3番員は屋外消火栓後方に位置すること。
なお、実施要領には、はみ出さない旨の表記をしているので、1番員と2番員の位置はホース台後方で、台の垂直延長線上からはみ出さなければ、どの位置でも構わない。

○ ホース結合の確認動作について

手元を引いて完全に結合されているかの確認動作を行って「よし」と呼称すること。要領にも記載していることだが、完全に結合されていないと危険なので念のため。

○ 指揮者の「放水始め」の号令時期について

1番員の注水姿勢が安全にとれたと指揮者が判断した時であり、2番員の姿勢は問わない。
ただし、筒先から放水されるまでの間に2番員は注水補助姿勢をとること。

○ 3番員の復唱について

復唱する時は、指揮者に正対して行うこと。つまり、手信号は、基本の姿勢から行うものとし、放口レバー等を持ったままの姿勢での復唱は、「復唱」とは認めない。

○ 放水停止後の休止について

2番員は注水制限線を越えなければ、1番員・2番員はどちらが左右でも構わない。

○ 消火栓放口レバーのロックピンについて

放口レバーを閉鎖する場合はロックピンを解除しなければ、レバーが動かない。このことを忘れて放水が止められない場合は、危険な状態であるとみなし、審査員がロックピンの解除を指示するとともに操作上の失点5点（審査表No.4 5に該当）を加える。（複数回指示があった場合は、それを加算する）

○ 指揮者が移送する第3ホースの設置方法について

延長をしなければ、ホースを置く向き等は一切問わない。延長の準備は認める。
（例）延長方向に向け、ホースを立てて置く等

○ 「増加ホース結合」の操作開始時期について

第一標的の注水が完了し、指揮者の「増加ホース結合」の号令後、1番員の「よし」を受け、第3ホースを延長すること。この時、1番員が「よし」の呼称を言い終わるまでは1・2番員は注水姿勢を保持することになるので、第3ホースを延長する隊員が第3ホース側に態勢をとること及び第3ホースに触れることは認められない。

○ 収納の計時終了について

収納が完了し、集合線に指揮者以下隊員が番号順に整列した時とし、この時、全員が火点側を向き、静止すれば計時は終了する。全員が集合線に整列しても、番号順に並んでいなければ、計時は終了しないので念のため。
なお、全員が集合完了せずに次の行動（指揮者の点検）に移行した場合は、その時点で審査員から一時停止の指示を行い、操作上の失点5点（審査表No.4 3に該当）を加える。

○ 使用するホース長さについて

実施要領において、ホース長さのことにについて明記されていないが、競技の公平性を期すため、競技に使用するホース長さは、全長（接手部分含む）が19m～21mの範囲内のものしか使用できないこととする。なお、競技受付後に会場内で審査員によるホース確認を行うので、各チームは開会式までに確認を受けること。